

病虫害発生予察特殊報第3号

平成11年11月17日
三重県病虫害防除所

本県において、トマト黄化葉巻病が初確認されたので特殊報として発表する。

1. 病虫害名：トマト黄化葉巻病
(トマト黄化葉巻ウイルス：Tomato yellow leaf curl virus：TYLCV)
2. 発生確認作物名：トマト
3. 発生確認地域：北勢地域の一部
4. 発生確認の経過：9月上旬から北勢地域内の抑制栽培トマトのほ場において葉縁が黄化し、葉が内側に巻く症状の株が多発生したため、三重県農業技術センターと愛知県農業総合試験場において同定を行ったところ、TYLCVであることが確認された。
5. トマト黄化葉巻病について
 - 1) 病徴
 - ・発病初期には新葉の葉縁から退色しながら葉巻し、後に葉脈間が黄化し縮葉となる。
 - ・病勢が進行すると発病株の頂葉が叢生し株全体が萎縮する。
 - ・特に生育初期に感染すると激しく発病する。
 - ・発病前に着果した果実は正常に発育するが、発病後は開花しても不稔となることが多い。
 - 2) ウイルス伝染の様式
 - ・主としてシルバーリーフコナジラミ（通称タバココナジラミ）により永続伝搬される。
 - ・シルバーリーフコナジラミ（タバココナジラミ）の幼虫、成虫ともにウイルスを獲得でき、罹病株を吸汁し、約1日の潜伏期間を経た後に伝搬能力を持ち、長期間ウイルスを伝搬できる。また、経卵伝染する可能性がある。
 - ・種子伝染、土壌伝染、汁液伝染及びアブラムシまたはオンシツコナジラミによる伝搬はない。
 - 3) 感染する可能性のある植物
 - ナス科（トマト、チョウセンアサガオなど）、キク科（ヒャクニチソウ）などに感染することが報告されている。
6. 防除対策
 - ・シルバーリーフコナジラミ（タバココナジラミ）の防除を育苗期から徹底する（県病虫害防除基準p103～105参照）。
 - ・発病株は二次伝染源となるので見つけしだい抜き取り土中に埋める。植物残さも同様な方法で処分する。ほ場周辺には絶対捨てない。
 - ・ほ場周辺の雑草はシルバーリーフコナジラミ（タバココナジラミ）の寄主植物となりTYLCVの伝染源となる可能性があるため除去する。
 - ・ほ場周辺の他作物や前作の他作物においても、シルバーリーフコナジラミ（タバココナジラミ）が寄生している場合は、増殖源となる可能性があるため徹底防除を行う。
 - ・施設栽培では施設の開口部に防虫網（1mm目）を張り、シルバーリーフコナジラミ（タバココナジラミ）の侵入を防ぐ。
 - ・疑わしい症状が発生している場合は、農業改良普及センターや病虫害防除所に連絡する。